

# 主体的・協働的な学級集団づくりを目指して

## —中学校における学級力向上プロジェクトの円滑な実施を通して—

教育学研究科 教育実践創成専攻 教育実践開発コース 教師力育成分野 富田翼

### 1. 問題と目的

#### 1-1. 学級経営の重要性

平成29年に告示された新学習指導要領（文部科学省,2017）には学級経営について「学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること」と明記されている。この改定においては、学級経営の重要性が小学校のみならず、教科担任制を採用する中学校や高等学校においても改めて認識され、学級経営の充実が重要な課題として位置付けられるようになった。

また、山梨県学校教育指導指針（山梨県教育委員会,2024）においても、「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」を支える基盤として「学級経営・HR経営の充実」が謳われている。さらに、本務校がある甲府市でも、甲府スタイルの授業「こうふのたから」（甲府市教育委員会,2024）の中で、授業づくりの7つの視点のひとつとして「学級集団づくりも大切に」が挙げられており、学級経営の重要性が強調されている。

一方、学校現場に目を向けると、教師の世代交代が非常に速いペースで進行している。浦野（2008）は「ここ数年の間に、20代の若手教師が激増し、学校現場に活気が漲るようになってきた。しかしその半面、学級経営上の課題の多さ、困難さに戸惑う若手教師も少なくない」と述べている。このことから、若手教師への支援は学校現場における喫緊の課題であることが伺える。筆者の経験からも、現在の若手教師は、ベテラン教師の学級経営の手法を直接学ぶ機会が減少しており、その結果学級経営に悩む教師が増加していると感じている。

また、小栗（2023）は「かつては街角や路地裏、

空き地などの遊び場が子どもたちのサードプレイスであった」と述べている。昔とは異なり、現在では地域全体で子どもたちを見守ろうとする意識が薄れつつあり、子どもたちが住んでいる地域でサードプレイスを見つけることが難しくなっている。したがって、セカンドプレイスである学校をより魅力的な場所にすることが、これまで以上に重要となっている。このような背景を踏まえ、学校生活の基盤である学級を居心地の良い場所とし、生徒にとっての居場所や拠り所となるようにすることが求められる。

#### 1-2. 学級経営アセスメントツール

現在、学校現場で使用されている学級経営アセスメントツールにはさまざまな種類がある。平野（2019）は「学校不適應等の課題を起こさない居心地の良い学級をつくるには、学級の状況を適切に把握し、効果的な指導行動を謙虚に、計画的に、粘り強く実施しなければならない」と述べている。このような視点を踏まえ、R-PDCAサイクルによって行う学級力向上プロジェクトは、居心地の良い学級をつくる学級経営アセスメントツールに適していると考え、本研究で取り扱うこととした。

ここでいう学級力とは、中学校において、田中（2013）が定義した6領域24項目に基づくものである。具体的には、領域1「達成力」（目標、改善、役割、団結）、領域2「自律力」（主体性、時間、運営、けじめ）、領域3「対話力」（聞く姿勢、つながり、積極性、合意力）、領域4「協調力」（支え合い、修復、感謝、協力）、領域5「安心力」（認め合い、尊重、仲間、平等）、領域6「規律力」（学習、生活、整理、校外）の6領域に分けられ、これらは学級経営において基盤となる力として重要であるとされている。

学級力向上プロジェクトとは、早稲田大学教職大学院の田中博之が考案したものである。田中(2021)はこのプロジェクトを「学級力アンケートによる学級力の自己評価、学級力レーダーチャートを基にして話し合うスマイルタイム、そして学級力向上のために子どもたちが主体的に取り組むスマイル・アクションという3つの活動を、1年間のR-PDCAサイクル(診断・計画・実施・評価・改善)に沿って意図的・計画的に子どもたちが実践する課題解決的な学習である」と述べている。学級力向上プロジェクトの具体的な流れについては表1に示すとおりである。

表1 学級力向上プロジェクトの流れ

R-PDCA サイクル	
R	「いいクラスってどんなクラス？」というテーマで話し合う ・第1回学級力アンケートを実施し学級力レーダーチャートを作成する ・レーダーチャートを見ながら学級力の状況を診断する
P	学級力を高める具体策(スマイル・アクション)を決める
D	朝の会、授業中、休み時間、帰りの会などでスマイル・アクションを行う
C	第2回学級力アンケートを実施し学級力レーダーチャートを作成する ・レーダーチャートを見ながら学級力を診断し改善策を考える
A	朝の会、授業中、休み時間、帰りの会などでスマイル・アクションを行う

### 1-3. 本研究で扱う学級力向上プロジェクトの課題点

学級力向上プロジェクトは、山梨県内においても盛んに取り組まれている。しかし、大山・磯部・倉本(2019)が、「時間の確保に不安を感じている様子も見られた」と述べているように、教師は授業や日々の業務、放課後には部活動指導や保護者対応などに追われており、学級力向上プロジェクトに充てるための時間を十分に確保することが難しいという現状がある。

また、学級でスマイル・アクションについて話し合うスマイルタイムにはいくつかの難しさが伴う。文献などでは多くの実践事例が紹介されているが、学級力アンケートの結果として示されるレーダーチャートの読み取り方や、その結果をいかにスマイル・アクションに結びつけるかというアプローチ方法、さらにはスマイルタイムにおける話し合いの進め方については十分に言及されていない。昨年度、実際に本務校で実践した際の具体的な課題として、スマイルタイムにおける話し合いの内容が学級ごとで大きな差が生じることが挙げられる。特に若手教師からは、教職経験が不足しているため、スマイルタイムにおける生徒の話し合いの進行方法について適切なアドバイスができないという意見が出された。

学級力アンケートの内容は、学級の実態を把握するために適切な項目が盛り込まれている。しかしながら、一部の項目については、実施対象である生徒の実態と合致しない部分も見受けられる。また、中学1年生から3年生まで同一の文言が使用されているため、アンケート実施時に生徒から「質問の意味が分からない」といった指摘があった。このことから、生徒の実態や発達段階に応じた文言の調整を十分に行う必要があると考える。

## 2. 目的

本研究では、学級力向上プロジェクトの課題点を改善し、円滑に実施できる手立てを探ることを目的とする。

### 3. 方法

#### 3-1. 実習の期間及び対象生徒

山梨県内の公立中学校1年生5学級、151名を対象に、5月から11月の実習期間中に取り組んだ。生徒への質問紙調査、教師への面接調査は、12月に実施した。

#### 3-2. 課題点克服のための取り組み

##### 3-2-1. 時間的な問題について

###### ICT機器の活用

文部科学省のGIGAスクール構想により、児童生徒1人1台端末（パソコン・タブレット端末）が整備され、山梨県内の小中学校においてもそれらを活用した授業が始まっている。学級力アンケートも生徒用タブレット端末を使用し、Google Formsを用いて生徒に回答させた。

##### 3-2-2. スマイルタイムについて

###### スマイルタイム用ワークシートの開発

先行研究においては、スマイルタイムの難しさを解決する有効な手段が見当たらなかった。そのため、スマイルタイムを円滑に実施するための方法を模索した結果、ワークシートの開発に取り組むこととした。

ワークシートの1枚目（図1）では、ワークシートに沿って記入を進めることで、学級の強みと課題を整理できるようにした。レーダーチャートの結果に加え、テキストマイニングで分析した生徒記述をまとめることにより、生徒の意見を体系的に整理できるようにした。

2枚目（図2）では、これらの分析結果を基に、学級の強みを活かし、改善したい課題を設定できるようにした。また、スマイルタイムを実施する前に学級担任からアドバイスを受ける手順を組み込むことで、より効果的な支援を得られるよう工夫した。

3枚目（図3）では、スマイルタイムの進行方法及び実施における留意点を記載し、話し合いが困難になった際にいつでも確認できる手引書として活用できるように設計した。

1年（ ）組 学級力向上プロジェクト

1. 私たちの学級の強みベスト3（レーダーチャートから）

1位

2位

3位

2. 私たちの学級のよいところを簡単な言葉にしてみよう。（テキストマイニングから）

3. 私たちの学級の課題点（レーダーチャートから）

4. 私たちの学級の課題や改善すべきところを簡単な言葉にしてみよう。（テキストマイニングから）

図1 ワークシート1枚目

5. レーダーチャートとテキストマイニングから、学級の強みと課題点が見えてきたと思います。学級の様子が見えてきたところで、次は課題点の中から学級で取り組みたい課題を挙げてみよう。優先的に取り組みたいことを3つ程度あげましょう。

6. ここまでできたら担任の先生に見てもらい、担任の先生からアドバイスをもらおう。担任の先生からいただいたアドバイスをまとめよう。

図2 ワークシート2枚目

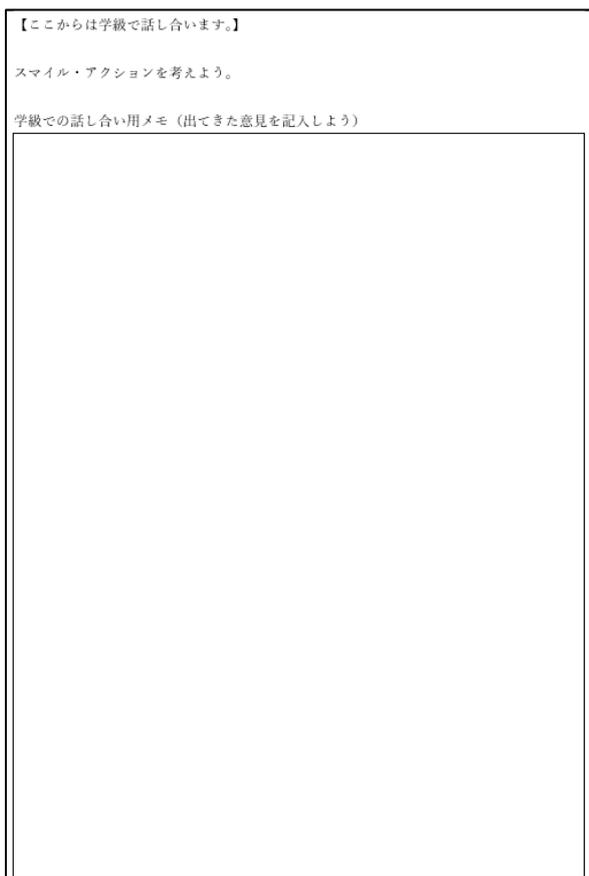


図3 ワークシート3枚目

### テキストマイニングによる分析

生徒の記述内容については、テキストマイニングを用いて分析を行い、その分析結果を生徒に提示した。これにより、学級力アンケートの結果を示したレーダーチャートに加えて、生徒の記述内容に基づいた分析結果も活用できるようになり、スマイルタイムでの話し合いに必要な材料が増加した。

### 取り組みの掲示

学級、学年の仲間、授業者などへ活動のフィードバックをするために、教室、学年フロア、教室の入口に取り組みを促す内容を掲示した（図4）。



図4 掲示の様子

### 学年生徒会による活動の運営

スマイルタイムの実施における難しさを解消するため、学年生徒会の生徒に同一のワークシートを使用させ、話し合いの準備を行わせた。その後、その進行方法を担任の教師と確認し、掲示を通じて学年全体にフィードバックを行った。これら全ての活動を学年生徒会が中心となり運営することで、円滑なスマイルタイムの実施を目指した。

#### 3-2-3. 学級力アンケートの文言の修正について

先行事例や過去のデータを参考にするため、大きな変更は加えないが、実習校の学年の教師（今回は特に学年主任及び学年生徒会顧問）と話し合い、実習校の1年生の実態により近い内容や、生徒にとってわかりやすい表現に置き換えることで、より正確なアンケート結果が得られると考え、該当箇所を修正した。

#### 3-3. 取り組み後の生徒に対する質問紙調査

学級力向上プロジェクトに中心となって取り組んだ学年生徒会の19名の生徒に対して、全7項目の質問紙調査（表2）を実施した。

表2 調査内容

	質問内容
質問1	学級力向上プロジェクトはあなたの学級をよりよくするために役に立ちましたか。
質問2	その理由を具体的に教えてください。
質問3	スマイルタイム用のワークシートは学級の強みと課題を整理するために役に立ちましたか。
質問4	その理由を具体的に教えてください。
質問5	学級力向上プロジェクトをリーダーとしてやってみて、どの段階に難しさを感じましたか。
質問6	その理由を具体的に教えてください。
質問7	学級力向上プロジェクトをよりよいものにするために、もっとここを変えた方がいいというアイデアがあったら教えてください。

### 3-4. 取り組み後の教師に対する面接調査

学年生徒会顧問の教師に対して、事前に学年の教師から意見を聞くよう依頼し、その後面接調査を実施した。

## 4. アンケート結果

### 4-1. 学級力向上プロジェクトの有効性

「学級力向上プロジェクトはあなたの学級をよりよくするために役に立ちましたか」という質問に対し、約90%の生徒が「役に立った」と回答した(図5)。また、質問2の回答に対するテキストマイニングによる分析結果(図6)において、「学級」を中心に「取り組む」「改善」「役に立つ」といった語句が頻出していた。具体的な記述では、「学級力向上プロジェクトでは、みんなが取り組もうとしたのでとても役に立ったと思います。このプロジェクトで学級が良くなったと思います」「課題を改善しようと協力することができた」という意見や「挨拶ができた」「提出率が上がった」という具体的な活動に対する意見も見られた。また、「活動が終わったら元

戻ってしまった」「大きな効果があったのは最初の方で、その後は少しずつ効果があった」といった意見も見られた。

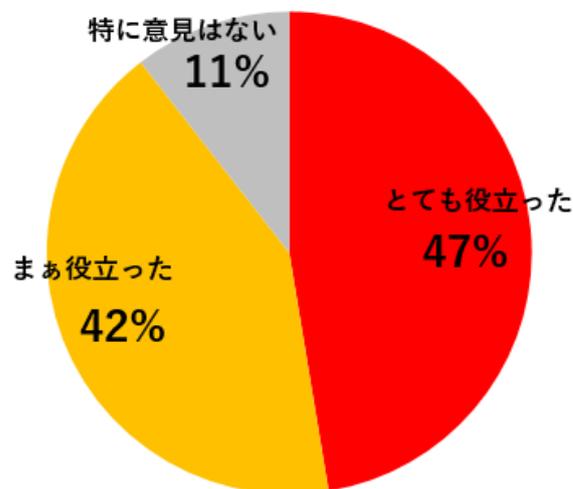


図5 質問1に対する回答結果

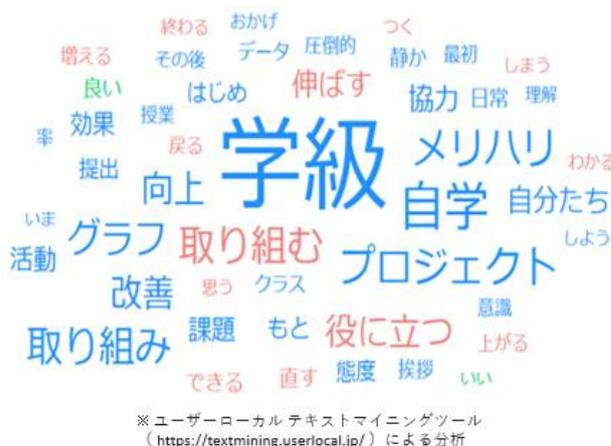


図6 質問2に対する回答の分析結果

### 4-2. ワークシートの有効性

「スマイルタイム用のワークシートは学級の強みと課題を整理するために役に立ちましたか」という質問に対し、約80%の生徒が「役に立った」と回答した(図7)。また、質問4の回答に対するテキストマイニングによる分析結果(図8)において、「レーダーチャート」を中心に「考えやすい」「分かりやすい」「役に立つ」といった語句が頻出していた。具体的な記述では、「ワークシートがあったおかげで話し合いがともしやすくなった」「具体的な課題とその解決に向けた

アプローチを分かりやすくまとめられたので非常に役立った」「みんなが自分の学級をどう思っているのかが分かり、どんな学級を目指せばいいか、そのためにどのような活動をすればいいかが考えやすかった」といった意見があった。

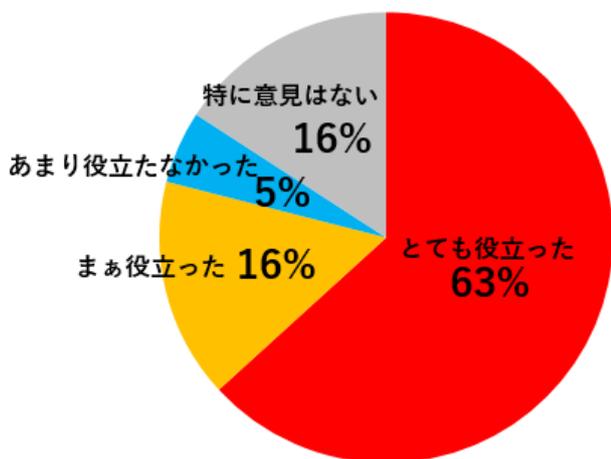
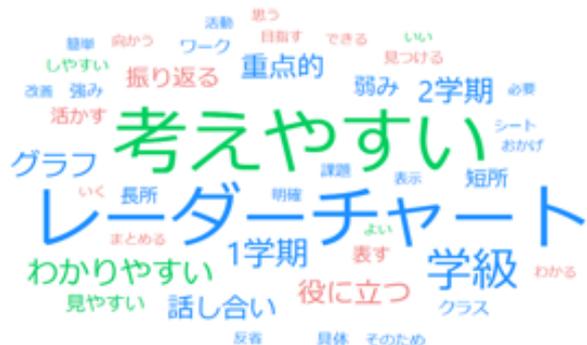


図7 質問3に対する回答結果



※ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) による分析

図8 質問4に対する回答の分析結果

#### 4.3. 取り組みの難しさについて

「学級力向上プロジェクトをリーダーとして取り組んでみてどの段階に難しさを感じましたか」という質問に対し、学年生徒会の半数以上の生徒が「スマイルタイムの進行方法に難しさを感じていた」と回答した(図9)。また、質問6の回答に対するテキストマイニングによる分析結果(図10)において、「まとめる」「頑張る」「意識」「難しい」といった語句が頻出していた。具

体的な生徒の記述では、「スマイル・アクションを紙で提示するだけで終わることなく、取り組むことができた」「アンケートを分析するときにはいいところはどうしたら継続できるか、課題になったところはどうしたら改善できるかなどを考えるのがとても大変だった」「みんなからは意識するなどの意見しか出なかった」「色々な意見の賛否で討論のようになってしまった」といった意見があった。

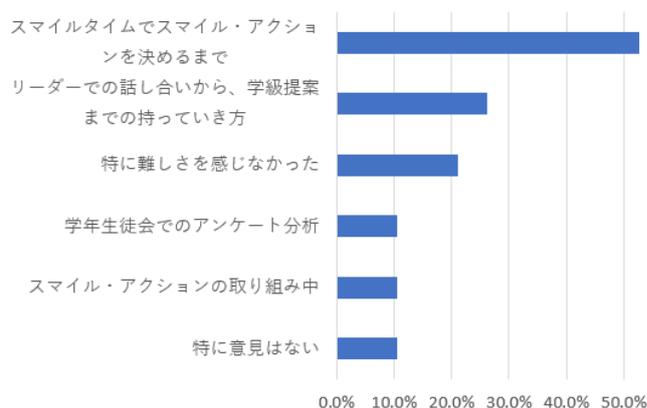
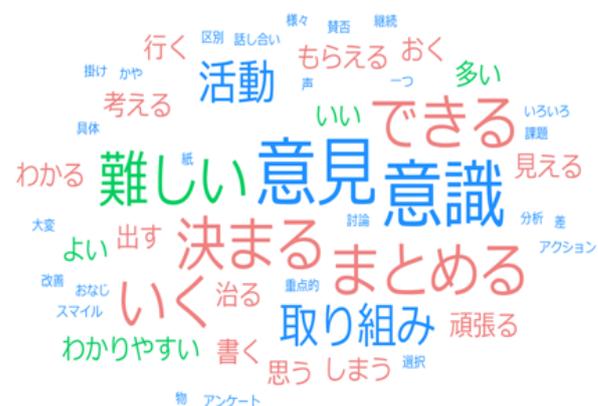


図9 質問5に対する回答結果



※ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) による分析

図10 質問6に対する回答の分析結果

#### 4.4. 活動をよりよいものにするために

「学級力向上プロジェクトをよりよいものにするために、もっとここを変えた方がいいというアイデアがあったら教えてください」という質問に対して、「最初にみんなにしてもらおう質問に、学級をより良くするためには、どのようなこ

とに取り組む必要がありますかと質問し、各クラスでそれをもとにスマイル・アクションを考える」「スマイル・アクションの活動内容を、学年で統一すればより意識して活動に取り組めると思う」「話し合いのときに具体的な例を示すこと」といった意見があった。

#### 4-5. 教師への面接調査の結果

教師への面接調査の結果では、「ICT 機器を導入したことにより、学級力アンケートの印刷、配布、回収、結果の入力作業が短縮され、思っていたより負担にならないと分かった」「生徒と一緒に学級全体の様子をみとることができ、学級を見つめ直すきっかけとなった」「スマイルタイムを行う前に、学年生徒会で結果の読み取りをすることにより学級で話し合うテーマを絞ることができた。そのことで、学年生徒会の生徒が学級での話し合いで中心となり進めることができ、リーダー育成の機会にもなった」「スマイル・アクションの活動期間を長く設定したことで、取り組みの継続性に難しさが伴った」という全部で4つの意見が挙げられた。

### 5. 考察

本研究では、学級力向上プロジェクトの課題点を改善し、円滑に実施できる手立てを探ることを目的とし、時間的な問題への手立て、スマイルタイムへの手立て、学級力アンケートの文言の修正の3つの方法でアプローチした。それに対して、調査対象の大多数が肯定的な回答を示したことから、学級力向上プロジェクトが円滑に実施できたと考えられる。

#### 5-1. 時間的な問題への手立てについて

時間的な問題については ICT 機器を導入したことにより、過去の実践で必要だった、学級力アンケートの印刷（10分）、配布・回収（5分）、結果の入力作業（1時間）が大幅に短縮されたことが明らかになった。

#### 5-2. スマイルタイムへの手立てについて ワークシートの開発

スマイルタイム用のワークシートについては、質問紙調査の結果から、肯定的な意見が多く見られ、ワークシートは生徒が学級の強みと課題を整理するのに役に立ったと思われる。また、テキストマイニングによる分析結果からは「話し合い」という語句が多く見られ、学級の話し合い活動にも効果があり、スマイルタイムに繋がる有意義な活動であったと推測される。

#### 学年生徒会による活動の運営について

スマイルタイムの実施における難しさを解消するために学年生徒会の生徒を中心に活動の運営を進めた。質問紙調査の記述から、彼らが学級力向上プロジェクトに対して高い意識を持ち、積極的に取り組んでいたことが伺える。また、教師への面接調査の結果からも、これらの活動がリーダーシップの意識向上に寄与したと思われる。

#### テキストマイニングによる分析について

生徒記述箇所は、学級の実態把握に非常に重要である。しかし、記述内容を他の生徒に読まれたくないと考えている生徒もいるため、学級にフィードバックすることは難しかった。そこで、テキストマイニングを用いて分析を行うことにより、生徒記述の分析結果を学級へフィードバックすることが可能となった。学級力アンケートのレーダーチャートの結果に加え、テキストマイニングによる分析結果も示すことで、生徒が学級の実態把握を行う手段が増えた。

#### 5-3. アンケートの文言の修正について

アンケートの文言については、過去に学級力アンケートを実施した際、テンプレート通りのものを使用していた時は、生徒から質問の意図や文言の説明を度々求められることがあった。しかし、今回の学級力アンケートではそのような質問はなく、生徒の実態や発達段階に応じた文言の調整が適切に行えた可能性がある。

#### 5-4. 今後のスマイルタイムの手立てについて

スマイルタイムを円滑に進行できるように、学年生徒会が活動の運営を行った。しかし、質問紙調査の結果から、調査対象の半数以上がスマイルタイムの進行に難しさを感じていることが明らかとなった。学級内での話し合いの難しさを解消するためには、各学級のリーダーである学年生徒会の生徒たちへの手立てだけでは十分でないことが分かった。このことから、学級内で話し合いができる環境が必要であると感じた。このことを解消するため、来年度はグループアプローチを含め、話し合い活動の土台づくりに繋がる取り組みについて検討を行いたいと考えている。

#### 5-5. 今後の生徒への意識づけについて

スマイル・アクションの掲示について、生徒記述の内容から、様々な場所に掲示することが生徒の意識づけにつながったと考えられる。一方で、掲示することのみではその場限りの活動となり、取り組みへの意識づけには十分ではないことも明らかとなった。また、取り組みを継続することの難しさについての意見もあり、スマイル・アクションへの意識づけや活動の継続性に繋がる掲示方法についても研究を行い、学級力向上プロジェクトを通じて、主体的・協働的な学級集団づくりを目指したい。

ター紀要』第4号,pp.145-152.

- ・小栗正裕 (2023)。「児童館の機能と活動内容についての考察—「居場所」としての機能を中心に—」『福岡女学院大学紀要』第24号,pp.33-40.
- ・甲府市教育委員会 (2024)。「『甲府スタイルの授業「こうふのたから』」
- ・田中博之 (2013)。「『学級力向上プロジェクト, こんなクラスにしたい! を子どもが実現する方法小・中学校編』. 金子書房
- ・平野達郎 (2019)。「中学校における学級経営の構造的視点からの検討」『学級経営心理学研究』8巻,pp.1-15.
- ・文部科学省 (2017)。「『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説総則編』
- ・山梨県教育委員会 (2024)。「『山梨県学校教育指導指針』

## 6. 参考・引用文献

- ・今宮信吾・田中博之 (2021)。「『NEW 学級力向上プロジェクト,小中学校のクラスが変わる学級力プロット図誕生!』.金子書房.
- ・浦野裕司 (2008)。「若手教師への学級経営に関する研修の効果—教師用 RCRT を活用した事例の検討—」『日本教育心理学会総会発表論文集』50巻,p.253.
- ・大山和則・磯部征尊・倉本哲男 (2019)。「自分が好き,仲間・学校が好き,地域が好きな児童を育てるカリキュラムマネジメントに関する—「学級力向上プロジェクト」「2コブラクダの授業づくり」「サービス・ラーニング」の視点から—」『愛知教育大学教職キャリアセン